

子育て支援グループ活動報告

一、はじめに

本稿では甲南大学人間科学研究所と甲南大学心理臨床カウンセリングルームの共催で実施された子育て支援グループにおける活動報告を行う。子育て支援グループ活動「親子相談」「うりぼうくらぶ」「子育てサークルまつぼっくり&プレイグールーポどんぐり」の詳細は次のとおりである。

二、親子相談

親子相談は、就学前の子どもをもつ保護者を対象とした個別相談である。毎月第一・三火曜日の午前中に設定している。親子が一緒に来所した場合、それぞれに担当者がつく。また、必要に応じて、発達検査の実施や情報提供等を行う。

三、うりぼうくらぶ

毎月第二・四火曜日の午前中（一一時から一二時半）に開催している。0歳児から就学前の子とも保護者を対象としている。うりぼうくらぶは、子どもの遊び場や保護者の交流および相談の場となることを目的としており、親子が同室で過ごす。

スタッフは、主に本学心理臨床カウンセリングルーム相談員（筆者）と、本学大学院生二名から構成される。内容は、設定遊びと自由遊びの二部から成る。設定遊びは、手遊びや親子ふれあい遊びなど、親子が一緒に楽しく過ごせるような内容である。また、親子が家庭でも実践できる遊びや季節に合わせた制作などを行った。自由遊びでは、スタッフが子どもの自主性を尊重しつつ受容的に関わった。また、必要に応じて、スタッフが親の育児相談を受けたり、親同士の交流を促進するような働きかけしたりした。本年は、年間二三回開催し、新規十組、のべ九十九組二〇九名の親子が利用した。

四、子育てサークルまつぼっくり&プレイグールーポどんぐり

前後期各一クール全五回、隔週水曜日の午前中（一〇時半か

ら(一二時)に開催した。0歳児から小学生の子どもをもつ保護者と子どもを対象としている。保護者が日々の子育ての振り返りや非日常的な体験を通して、リフレキシユすることを目的としている。子どもは、子育て経験者による託児を受けた。

四―一、二〇一七年度前期(第二九期)

第二九期は、継続参加者五名の母親と子ども二名が参加した。第一回…「体験ワークⅠ」筆者がファシリテーターを務めた。参加者が、自身や子どもの感情について改めて考えることを目的に、グループワークを行った。参加者からは、「子どもに対して感情的になってしまふこともある。改めて、子どもとの対話を大切にしようと思った」「実際に、感情を言葉で表現すると少しすっきりした」などの感想が寄せられた。

第二回…「体験ワークⅡ」筆者がファシリテーターを務め、第一回の内容をさらに深めるため、グループワークを行った。参加者からは、「気持ちを整理することで、考え方を変えることができそう」「子どもがどんな気持ちでいるかをもっと理解したい」などの感想が寄せられた。

第三回…「アート体験」本学人間科学研究所客員特別研究員の内藤あかね先生を講師に迎えた。参加者は、火山をテーマに描画した。参加者が自身の作品を紹介した後、「他の人の絵やイメージに触れることで、自分の視野が広がった」「単純に絵

を描くことも楽しかった」等の感想を述べた。

第四回…「茶道体験」本学学生相談室の友久茂子先生を講師に迎えた。参加者は、和室の落ち着いた空間のなかで、お茶をたてる体験をした。参加者からは、「日常と時間の経過の感覚が違い、心が落ち着いていた」「季節を味わうという楽しさを学んだ」などの感想が寄せられた。

第五回…「子育てのお話」本学名誉教授の松尾恒子先生を講師に迎えた。参加者は日頃の子育てについて話し、子育ての楽しさや苦労について共有した。そのなかで、松尾先生から、子どもを褒めることと叱ることについて、お話していただいた。参加者からは、「褒めるということは、子どもの存在を認めることだとわかった」との感想が寄せられた。

四―二、二〇一七年度後期(第三〇期)

第三〇期は、継続参加者四名の母親と一名の子どもが参加した。

第一回…「体験ワークⅠ」筆者がファシリテーターを務め、自身の『心の支え』について振り返るため、幼い日の印象に残っている場面を描画するというグループワークを行った。参加者からは、「過去を思い出してみると、周囲への感謝の気持ちでいっぱいになった」「子どもが大人になったとき、楽しい思いがたくさん残っていたらいいなと思う」などの感想が寄せられ

た。

第二回…「体験ワークⅡ」筆者がファシリテーターを務めた。参加者が、自身の考えや気持ちを客観的にみることを目的に、自分にとって『良き理解者』に手紙を書くというグループワークを行った。参加者からは「自分の心の状態を把握することは大切だと感じた」「気持ちがあたたくなくなった」などの感想が寄せられた。

第三回…「体験ワークⅢ」筆者がファシリテーターを務め、参加者は子育てについてフリーディスカッションをした。参加者からは「他の参加者の経験談を聞いて、気持ちが楽になった」「他のお子さんの様子や先輩ママの話聞くことができて参考になった」などの感想が寄せられた。

第四回…「茶道体験」本学学生相談室の友久茂子先生を講師に迎えた。参加者からは、「お茶の作法や意味について話を聞くことができ、心身ともにいやされた」との感想が寄せられた。

第五回…「子育てのお話」本学名誉教授の松尾恒子先生を講師に迎えた。参加者は、子育てにおける悩みを話し、松尾先生から助言をいただいた。参加者からは、「子どもの発達に伴い、育児の悩みも変わってくるので、まっぴり場の必要性を改めて感じた」との感想が寄せられた。

五、おわりに

子どもの発達に伴い、保護者の子育てにおける悩みも変化しつつある。今後、参加者のニーズに応じながら、グループ活動の内容やあり方を長期的な視点から考えていきたい。

(岩本 沙耶佳)